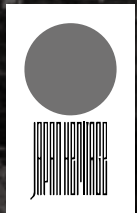


百万都市江戸を支えた江戸近郊の四つの代表的町並み群

日本遺産に連なる

4月25日、佐倉市、成田市、香取市、銚子市を舞台としたストーリー「北総四都市江戸紀行・江戸を感じる北総の町並み」が日本遺産に認定されました。

日本遺産とは、文化庁が認定する我が国の文化・伝統を語るストーリー、つまり物語なのです。特定の文化財を指して評価するのではなく、今回の場合、江戸を感じる町並みを語る上で欠かせない有形や無形の文化財が対象となります。



北総四都市のストーリー

北総地域は、江戸に続く利根川と街道を利用して東国の物資を供給し、百万都市江戸の暮らしを支えました。

また、江戸との盛んな人物の交流により、城下町佐倉、門前町成田、河港商業都市として香取神宮参道の起点となった佐原、港町銚子という4つの特色ある都市に発展しました。

ストーリーの一角を構成する佐原の物語

「お江戸見たけりや佐原へござれ佐原本町江戸優り」とは江戸を引き合いに佐原のにぎわいを表した俗謡で、江戸時代の佐原の繁栄がうかがえます。小野川筋と香取街道沿いの商家や醸造蔵などの町並みはこの頃にはすでに形成されていたようです。この繁栄を支えたのが水運です。佐原は下利根随一の河岸として発展し、東北地方や江戸と強く結びつき、物資や人が行き交うようになりました。

下総国一の宮として古代から鎮座する香取神宮は、江戸後期になると木下河岸（印西市）を経出した香取神宮・鹿

島神宮・息栖神社の舟運による三社詣が人気となり、信仰だけでなく行楽地として旅人が訪れるようになります。その中には、松尾芭蕉、小林一茶、渡邊華山などの文人墨客も含まれています。

水運の隆盛は、地域の経済力を高めただけでなく、江戸との文化的な交流も深め、それに刺激を受けて地域文化も醸成されました。その結果、多くの文化人を輩出しました。かの伊能忠敬、和学者の楢取魚彦、儒学者で忠敬と親交の深かった久保木清淵、下総の地誌を著した清宮秀堅、そして順天堂医院（のちの順天堂大学）を創始した佐藤尚中などがいます。



伊能忠敬旧宅

佐原村本宿組の名主を務め、酒造業や米穀売買などを家業としていた家。

伊能忠敬関係資料

伊能三郎右衛門家の10代目伊能忠敬は、名主として佐原の繁栄に尽力。その後全国の測量を行い、初めて精巧な日本地図を完成させた。

日本遺産認定ストーリー「江戸を感じる北総の町並み」に登場する文化財を紹介します！

香取市佐原伝統的建造物群保存地区

利根川筋の代表的な河岸として、江戸への荷の集積地の役割を担い栄えた商業都市の町並み。

佐原の山車行事

豊かな経済力を背景に江戸文化と交流を深め発展してきた祭り。

佐藤尚中誕生地

下総國小見川出身の佐藤尚中（山口舜海）は、東京に順天堂医院を設立するなど、日本近代医学の中心人物。

日本遺産認定証の交付

7月1日、文化庁などが主催する日本遺産サミットが岐阜県で開催され、香取市は認定団体として参加します。サミットでは日本遺産認定証が交付され、現在37件となった日本遺産の一つに加わります。今回、日本遺産に連なることで、佐原を起点に市全体の魅力を知ってもらう機会を得ました。国内外から注目が集まる中、ぜひ、皆さんの言葉で地元の良いさを伝え、地域を元気にしていきましょう。

香取神宮（本殿、楼門、旧拝殿、神庫、神徳館表門、香雲閣、拝殿、幣殿、神饌所、神宝類）

古代より、この地に鎮座し崇敬される香取神宮。江戸期、東国三社詣が人気を博した。



津宮河岸の常夜燈

津宮鳥居河岸は、かつて香取神宮への表参道口だった。ここに燈台の役目として建てられた利根川筋最古の常夜燈。

